

2012 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答

- 【開催日】 2012 年 11 月 7 日（水）16:00～17:30
- 【出席者】 代表取締役社長：小林 健
副社長執行役員 CFO：上田 良一
執行役員 主計部長：内野 州馬
IR 部長：岡久 靖

【質疑応答】

① 今後の業績見通しおよび成長戦略について

Q. 期初に通期見通しを 5,000 億円とした背景と、下方修正 3,300 億円に対する現時点での感触について伺いたい。通期見通しの修正内容当期純利益 3,300 億円への達成見通しは。

A. 期初時点で、原料炭事業のマイナスはある程度想定したが、その他セグメントでカバー可能と考えた。然しながら、原料炭事業におけるストの長期化及び価格の下落が想定以上となってしまったこと、化学品の市況低迷などもあり、下方修正することになった。今回の下方修正は、現時点で想定しうる材料（原料炭価格の下落、化学品の市況の低迷、上場株減損）を全て織り込んでおり、達成可能と考えている。

Q. 来期利益計画の見通しについて、MDP 以外に増益効果を見込むものはあるのか。

A. MDP については、今後は如何にコスト競争力を上げていくかがポイントとなろう。一方、非資源分野は Solid なビジネスモデルを随所で確立出来つつあり、心強く思っており、今後も成長を見込んでいる。

Q. 非資源分野の利益の伸びはキャッシュフローに反映されているのか。また、今後 3 年も伸びていくと考えて良いか。

A. 非資源分野は資源に比べ投資に対する果実の刈取り時期は早く、次期中期経営計画でも積極的に刈取りを行っていく。

Q. 機械グループ及び新産業金融事業グループの今後の成長戦略について。

- A. 機械グループは組織改編があり、現在は自動車、船、宇宙、プラント、産業機械が主な事業である。自動車についてはまだまだ伸びる。船はシクリカルなマーケットであり暫く難しいが、産業機械、プラント、建設機械などの海外での販売に加え、販売金融等、事業モデルのすそ野が広がっている。新産業金融事業グループは設立から6年目を迎え、不動産、リース、その他金融仲介ビジネス等の分野において金融事業のモデルは相当程度確立した。次期中期経営計画においては、更にもう一段の選択・集中を進めていきたい。

② 投資について

Q. 資源価格が下落したが、今後の投資の方針について資源分野を中心に伺いたい。

- A. 投資については、キャッシュフローあるいは利益の範囲内ということが大原則にし、それ以上は需要があれば入れ替えで対応したいと思う。資源分野への投資は長期的な視点で果実の刈取りを考えている。資源は有限であり、日本への安定供給責任という観点でもサプライソースの確保の為に、長期的な視野で投資をすることが第一である。また、リスクの分散、収益の柱を増やす観点から、昨年度は銅への大型投資も行った。非資源分野においては将来の成長を見据えて、新たな投資を行わなければならない。損切りだけでなく、より良いもの、収益性の高いものに集中して投資するということをやっていきたい。

③ 資本政策について

Q. 今期通期目標を上振れした場合、配当はどうなるのか。また来期以降の配当方針について伺いたい。

- A. 基本的には、現在の配当性向の中でその分配当額を増加させるという考え方である。来期以降の配当政策については現在検討中であり、次期中期経営計画にて改めてご説明したい。

Q. 上期のアセットの入替も含めたネットの投資実績は。通期のキャッシュフローの見通しは。

A. 今年度第2四半期までの累計で、グロス4,600億円の投資に対して、減価償却や資産売却で▲1,200億円、為替の影響や減損で▲1,000億円、ネットで2,400億円となる。フリーキャッシュフローは、下期の投資が予定通り実行されるとマイナスの数字にはなるが、昨年度よりは改善する見込みである。

Q. 今後の投資方針を何う限り、有利子負債削減、株主資本増加により、財務体質は改善すると予想されるが、その反面、ROEを高めにくい構造になるのではないか。

A. 中経2012での投資方針では、2012年度末までの3年間でネット借入金が増える見込みである。ネット有利子負債倍率は1~1.5倍の範囲内に収めているが、絶対額としての借入金が増加しており、キャッシュフローをより念頭において、投資を実行する必要があると考える。株主資本が充実する一方、利益成長がそれについてこないとすれば、ROEが下がることになってしまうので、次期中期経営計画に向けて、「規律ある成長」をどう実現していくか、ご指摘の点も踏まえて検討したい。

Q. 次期中経でもROEを経営指標とするのか。また、ROE向上の為に、自社株買いなど検討しているのか。

A. 次期中期経営計画における資本政策の一環として検討の上、改めてご説明したい。

④ 個別案件

Q. サハリンプロジェクト第三系列増設の可能性について。

A. 将来の拡張の可能性について、現時点で詳細をご説明できる段階ではないが、当社としては第三系列を立ち上げ、日本へのサプライソースを確保したいと考えている。

Q. ジャックヒルズの現在の状況について。

A. なかなか難しい状況である。大規模なプロジェクトであり、FIDに進むには財務基盤のしっかりした優良なパートナーと組む必要がある。

以上